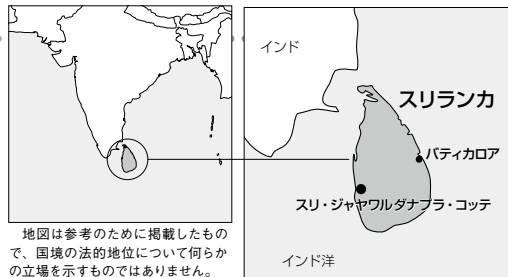


ユニセフ子ども物語

地球に生きる子どものくらし

Sri Lanka

スリランカ



地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。

兵士として過ごした少女時代を乗り越えて

復讐を誓って戦争へ

パトゥマさんは、まだあどけない少女の面影が残る20歳の女性です。パトゥマさんが14歳の時、ある手紙が届きました。それは、LTTE (Liberation Tiger of Tamil Eelam=タミル・イーラム解放のトラ) というタミル人の独立派からなる武装組織から、一家庭につき一人の子どもに送られていた召集令状でした。パトゥマさんは、大切なお兄さんと家族を政府軍によって自分の目の前で殺されていたため、復讐のため、迷わず戦いに参加しようと決めました。

少女兵としての5年間

3ヶ月の特訓を受け、スリランカ北部のジャングルの中に連れて行かれました。そこには90人の少年・少女兵の仲間がいて、そのうち少女兵は14人いました。多くの友達がパトゥマさんと同じように政府軍に家族を殺されていました。男女での役割に違いはなく、指令官の指示に従って毎日必死に戦いに参加していました。そんなある日、砲弾が落ちてきて目に怪我をして、パトゥマさんの片目は見えなくなってしまいました。

広いジャングルの中での戦いでは、自分がどこにいるかも分からず、逃げることもできません。指示に従わないと、叩かれたり、高い木の上に長時間のぼらされたり、重いものを持たされて立ちっぱなしにさせられたりという罰も

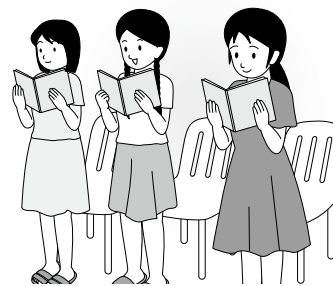
ありました。罰を受けるのはとても恐いため、子ども兵の友だちと一緒にただ戦うしか道はありませんでした。

そんな生活が5年間続いた2009年、反政府軍が降参して戦争が終わり、パトゥマさんの少女兵としての日々も終わりを告げました。



夢に向かって

軍隊から解放されたあと、パトゥマさんはユニセフの仲介により、スリランカ東部の町バティカローラにあるスリランカ最大のNGO団体、Sarvodayaが運営する職業訓練センターでリハビリテーションプログラムを受けられるようになりました。この職業訓練センターでは、パトゥマさんと同じような体験をした17歳~23歳の元少年兵、少女兵、約400人が訓練を受けています。平和について考えたり、戦争のトラウマをなくすための心の教育を受けたり、生活力を身につけるための指導を受けたり、将来のため、技術を学んだりしています。また、タミル語とシンハラ語と英語も学んでいます。これまで戦争で人を傷つけることを日常とした生活でしたが、パトゥマさんは、ここに通うようになってから、人を助けようとする心や地域社会と協力するという気持ちが生まれてきました。



いま、パトゥマさんの夢は、洋服の仕立て屋さんになることです。「今、着ているこの洋服も自分で作ったものなの」パトゥマさんはちょっとはかみながらも、未来に向かって目を輝かせて、そう語ります。少女兵としての残酷な体験を乗り越えて、強く生きるパトゥマさん。彼女の夢は始まったばかりです。



<文・構成：(公財)日本ユニセフ協会>

物語の国
スリランカ
民主社会主義共和国

スリランカは、「光り輝く島」という意味の名前をもつインド洋に浮かぶ小さな島国です。高温多湿の熱帯モンスーン気候で一年中あたたかい気候です。北海道の約8割という国土の中に、人口約2,063万人が暮らしています。



©日本ユニセフ協会
スリランカの農村部で
きれいな水をくむ女の子

内戦の残した傷跡から子どもたちを守る

スリランカでは、1983年から2009年まで26年にわたり内戦が続きました。この内戦では、18歳未満の子どもたちが兵士として徴兵されていた事実があり、国際的に非難されてきました。しかし、現在は、教育・医療は無償で提供され、機会も男女平等に与えられています。



©日本ユニセフ協会
ユニセフが支援する小学校



©日本ユニセフ協会
ユニセフが支援する小学校に通う子どもたち

スリランカの状況
(より詳しい統計は『世界子供白書2011』をご覧ください)

項目	スリランカ	日本
18歳未満の人口(2009)(1,000人)	5,850	20,551
5歳未満児死亡率(2009)(出生1,000人あたり)	15人	3人
妊産婦死亡率(2005-2009)(出生10万人あたり)	39人	6人
改善された水源を利用する人の比率(全国)(2008)	90%	100%
適切な衛生施設を利用する人の比率(全国)(2008)	91%	100%
初等教育純就学率(2005-2009)	99%(男子) 100%(女子)	-
低出生体重児出生率(2005-2009)	17%	8%

出典：『世界子供白書2011』

子どもらしさを奪われた子ども時代

子どもたちが巻き込まれた内戦

スリランカは、現在、まさに国を再建している途上であり、変換の時を迎えています。スリランカにおけるユニセフの重要な課題の一つが「子どもの保護」、特に、元少年・少女兵の再生です。

内戦中、反政府武装勢力(LTTE)は、9歳くらいの子供から少年・少女兵として徴兵していました。徴兵された子どもの数は約8,000人といわれ、中でも北東部では、月に200～300人の子どもが徴兵されていたこともと報告されています。ユニセフは、このような子どもたちを加害者ではなく、被害者として保護するよう政府に対して働きかけています。現在までに2,114人の元少年・少女兵を家族の元に帰すことができました。一方で現在も、約600人の子ども(男女比約半々)が行方不明であることを確認して、引き続き追跡調査を行っています。

保護された子どもたちは、リハビリテーションプログラムのある職業訓練センターなどで心のケアを行い、まず人を信頼できるようになることから支援していく必要があります。



©日本ユニセフ協会
「子どもに武器をもたせないように」
ユニセフが作成した啓発バナー

元少年・少女兵の社会復帰プロジェクト

「Sarvodaya Vocational Training Center」はスリランカ東部にある、元少年・少女兵のリハビリテーション施設兼職業訓練施設です。この施設には17歳から25歳くらいまでの青少年がいます。多くは月曜日から金曜日まで寮生活をし、週末には自宅に戻る生活ですが、両親がいない人は、卒業までずっと寮生活をしています。



©日本ユニセフ協会
元少年・少女兵たちのリハビリ訓練の様子

まずは、子どもたちが前向きな考え方ができるようにすることがとても重要であり、平和教育、心のリハビリテーションを主としたトレーニングを行います。そして徐々に、リーダーシップ、ジェンダーバランス、心理学、ライフスキル、社会開発、グループ形成、語学などを学んでいきます。また、子ども時代にできなかった勉強やスポーツを通して仲間の大切さや、平和について学んだりします。その後、運転免許を取得したり、技術を学んだりすることで、将来生計を立てるためのトレーニングを行っていきます。ユニセフは、徴兵リストに登録されていた子どものみならず、未登録の子どもにもできる限り対応し、このような施設に通えるように支援を行っています。

地雷から子どもたちを守る

スリランカでは、子どもたちが内戦中に埋められた地雷の犠牲になっています。これまでに36万6,870発の地雷が撤去されましたが、いまだに160万発の地雷が各地に埋まっていると言われています。地雷による事故は、2008年には4件にとどまっていたのに対し、2010年には28件にふえています。内戦の終結にと

もない、子どもたちが田舎に帰るときに、事故に遭うケースがあります。ユニセフは、地雷の被害に遭わないように、子どもたちへの地雷教育を支援しています。これまでに、36万人の子どもたちが地雷教育を受けました。地雷の全撤去までには、あと10年はかかる見込みだといわれています。